



プレスリリース

シュリ・サティア・サイ中央信託の受託者および管理評議会

2011年4月28日

1. シュリ・サティア・サイ中央信託（セントラル・トラスト）の受託者および管理評議会は、当プレス・カンファレンスにお越しの活字メディアおよび電子メディアの代表者各位に感謝いたします。この数週間、メディアに応じるよう望まれておりましたが、バガヴァン・ババの健康が衰えつつあったという特別な状況により、バガヴァン・ババになされた治療に関して以外、受託者による声明発表は一切不可能でした。そのため、当報道会見が遅くなりました。
2. シュリ・サティア・サイ中央信託は、1972年にバガヴァン・ババによって設立されました。シュリ・サティア・サイ中央信託は、公共の慈善信託であり、主に教育と厚生分野において奉仕活動を行ってきました。また、医療援助と高等教育に取り組むために、シュリ・サティア・サイ医療信託とシュリ・サティア・サイ高等教育機関という、二つの共同信託もバガヴァン・ババにより設立されました。シュリ・サティア・サイ医療信託が行ってきた医療援助は、2010年12月1日にシュリ・サティア・サイ中央信託により引き継がれました。
3. バガヴァン・ババは、これらすべての奉仕活動の主導者であられました。医療援助活動は、二つの高度専門病院と二つの総合病院を通じて行われています。これらの病院は、それぞれプッタパルティ（ババの生地）とバンガロールのホワイトフィールドにあります。医療援助は、カースト、宗教、言語の別なく、大勢の貧しく困窮している患者に提供されています。提供されている医療援助、および、そのためになされてきたインフラの詳細は、シュリ・サティア・サイ医療信託とシュリ・サティア・サイ中央信託のウェブサイトでご覧いただけます。（<http://srisathyasai.org.in/>, <http://sssm.org.in>）
4. 教育分野においては、シュリ・サティア・サイ中央信託が2校の学校を運営しており、1校はプッタパルティ、もう1校はラージャムンドリーにあります。高等教育は、バンガロールのホワイトフィールド、アナンタプル、プッタパルティのシュリ・サティア・サイ高等教育機関のキャンパスで授けられています。また、カルナータカ州チクバツラプル近郊のムッデナハツリにおいて、新しいキャンパスの開校整備も進められています。これらの教育機関はすべて、価値・真実・正義・平安・愛・非暴力に基づいた教育と人格形成に、最も焦点を当てています。
5. 以上の活動はすべて、愛と慈悲が霊的進化の岩盤を形成するという信条をもって、奉仕の精神で行われています。医療援助と教育は無料です。財源は、上述の複数の信託（以下「信託」）によって提供されています。信託は中程度の資本金を有しており、それにより正当な収益がもたらされています。インドおよび

び国外の提供者により自発的に「信託」へ送られてくる寄付は、ここに加えられています。

6. 「信託」の活動は、アーンドラ・プラデーシュ州とカルナータカ州全域に及びます。「信託」は、教育と医療援助活動に必要な土地と建物を所有し保有しています。プッタパルティの高度専門病院は、約 105エーカーの敷地にあります。同様に、バンガロールのホワイトフィールドにある高度専門病院は、52エーカーの敷地にあります。

シュリ・サティヤ・サイ中央信託は、これらの病院設立事業の建設費を支払っており、1991年に建てられたプッタパルティの病院の建設費は約 6億 5千万ルピー、2001年に建てられたホワイトフィールドの病院の建設費は約 13億ルピーでした。
7. プッタパルティの総合病院は、7エーカーの敷地に位置しています。シュリ・サティヤ・サイ中央信託は、ホワイトフィールドの総合病院の運営も行っています。
8. 教育活動の場合も同様であり、アナンタプルの女子大のキャンパスは、約 115エーカーの広さの敷地の中に位置しています。バンガロールのホワイトフィールドにあるキャンパスは、約 38エーカーあります。プラシャーンティ・ニラヤムにあるヴィッヂィヤーギリ [学問の丘] とも呼ばれるキャンパスは、学校、大学、スタジアム、大学本部、プラネタリウム等から成っており、約 60エーカーの敷地にあります。
9. 学校につきましては、シュリ・サティヤ・サイ中央信託は、アーンドラ・プラデーシュ州ラージャマンドリーにある、約 25エーカーのキャンパスの中にある学校を運営しています。
10. シュリ・サティヤ・サイ中央信託は、信奉者と患者のために、1991年に空港の建設も行っています。空港は 150エーカーの敷地の上にあります。
11. プラシャーンティ・ニラヤム・キャンパスは、70エーカーの敷地の上にあります。シュリ・サティヤ・サイ中央信託は、タミルナドゥ州コダイカーナルの土地と建物も所有しています。土地の広さは約 3エーカーです。シュリ・サティヤ・サイ中央信託は、ハイダラーバードのシュリ・サティヤ・サイ・ニガマーガマムと呼ばれるコミュニティ・センターも運営しており、ここは 3.5エーカーの敷地にあります。また、バンガロールにあるシュリ・サティヤ・サイ・サムスクルタ・サダナム [サンスクリットの家] と呼ばれるもう一つのコミュニティ・ホールも、シュリ・サティヤ・サイ中央信託が所有しています。
12. ここのところ、ニュース報道において「信託」の大きさが非常に誇張されていますが、おそらく今述べたことでお分かりいただけたとおり、土地は教育を行うキャンパスと病院にとって不可欠なものです。これらは商業的な目的に用いられているものではなく、決まった目的のために特別に譲渡された土地です。
13. 上述の医療援助と教育活動に加えて、中央信託は、アーンドラ・プラデーシュ州のアナンタプル、メダク、マヘブブナガル、および、東西ゴードーヴァリー地区における飲料水供給事業も行ってきました。中央信託は、これらの事業を一年間続行し、その後、政府に引き継ぎました。これらの事業は円滑に運営され続けています。これらと並んで、チェンナイ市に飲料水を提供するための、カンダレルとプーンディ間の水路の近代化事業も行われました。これら1995年から2010年の間に行われた水供給事業は、50億ルピーの経費を伴いました。
14. これまでバガヴァン・ババの「信託」が寄付を呼びかけたことは一切ありません。シュリ・サティヤ・サイ中央信託とシュリ・サティヤ・サイ医療信託のここ4年間の収入は、年間 10億から13億ルピーです。同時期の支

出は、年間 7億 5千万から10億ルピーです。ですから、信託の規模は中程度であるということは明らかです。

15. 医療援助活動のためには、約 1, 000人が雇用されており、これには医師、看護師、医療補助、その他のスタッフが含まれます。教育活動には、計約 250人が雇用されています。加えて、バガヴァン・ババの信奉者から成るボランティア団体、シュリ・サティヤ・サイ・オーガニゼーションが、これらの奉仕活動をサポートするために、ボランティアを提供しています。
16. これらと並んで、シュリ・サティヤ・サイ中央信託は、ニューデリーのローディー・ロードにシュリ・サティヤ・サイ国際センターを設立しました。このセンターには、学校、エデュケアのためのトレーニング・センター、ヒューマン・バリューの普及のための国際センター、図書館、ホールが備えられています。
17. インドおよび外国の多くの都市において、バガヴァン・ババに感銘を受けた信奉者によって、多数の学校が設立され、また、慈善事業が行われています。これらは、シュリ・サティヤ・サイ中央信託の傘下にはなく、独自の憲章によって管理されている別の組織によって所有され、運営されています。
18. 金、金銭的価値のある物、さらには金銭さえも横領しているといった、根拠のない、無責任な、偽りの非難に照らして、こうした非難はまったく事実無根であることを断言します。また、これらは、ある種の利権に基づいて、中央信託の公正な名誉を傷つけることを目的に工作されたものと信じられています。それらのどの主張にも事実は一切ありません。
19. 「信託」の業務処理はすべて、正式に会計帳簿につけられています。経験を積んだ、資格を有する会計士が、会計と財務管理を監視しています。収支決算書は、デリーに拠点を置く著名な公認会計士事務所により、正式に会計検査を受けています。法律で定められている定期的な経理報告、収支決済、会計検査が、所得税法、FCRA (公正信用報告法)、その他適応される法の下に、当局によって公式に記されています。いかなる法令の下、いかなる官憲によっても、「信託」のいずれかに対して、いかなる不正あるいは法律違反を主張する起訴が起こされたことはありません。
20. 受託者、職員、管理評議会のメンバーは、敬愛する創設者、受託者であるバガヴァン・ババによって、じきじきに選ばれて各地位に就かされています。彼らは罪を犯すことのない信任された人物であり、それぞれの専門において様々な職務で奉仕してきました。彼らは皆、創設者、受託者であるバガヴァン・シュリ・サティヤ・サイ・ババへの信愛により、「*「フーナヴァ セヴァはマールダヴァ セヴァ」* (人への奉仕は神への奉仕) ——人類に奉仕せよ、というバガヴァンの普遍なる御教えを動機として、名誉ある職務において「信託」に奉仕しています。

2011年4月28日 木曜日 午後4時発行

http://www.sssbpt.org/Pages/Prasanthi_Nilayam/trustpresstatement28042011.html